

# 平成30年度 第2回島根県農政審議会 次第

日 時：平成31年3月15日(金)13:30～15:30

場 所：島根県職員会館 健康教育室

## 1 開 会

## 2 農林水産部長あいさつ

## 3 議 事

### (1) 新たな農林水産業・農山漁村活性化計画第3期戦略プランの見直しについて

#### ①パイロットプロジェクトと関連する主要事業の概要

資料1

資料3

#### ②そのほかのプロジェクトの計画変更と関連する主要事業の概要

資料2

資料3

### (2) 第3期戦略プラン実績報告

資料4

### (3) 地域の特徴的な取組み

資料4

## 4 その他

## 5 閉会

# 平成30年度第2回島根県農政審議会 出席者名簿

## 島根県農政審議会委員

分野		氏名	勤務先(所属団体)・役職	
関係団体		カゲヤマ ヨシカズ 影山 喜一	JAしまね中央会常務理事	出席
学識経験者	大学	タニグチ ケンジ 谷口 憲治	就実大学教授、島根大学名誉教授	出席
	マスコミ	マエダ コウジ 前田 幸二	山陰中央新報社特別論説委員	出席
	ツーリズム	ササキ キョウコ 佐々木 京子	株式会社 扇原茶園 取締役	出席
農業者	個人経営	イジリ ヨシノリ 井尻 義教	和牛繁殖	出席
	個人経営	フジエ ミユキ 藤江 美由紀	ブドウ	出席
	個人経営	キツカワ ヒロエ 吉川 裕江	水稻、施設野菜	出席
	集落営農	ワタナベ イクコ 渡邊 育子	(有)赤雁の里、施設園芸	出席
消費者	流通	ヨネハラ ケンジ 米原 健二	松江連合青果(株)社長	出席
	流通	タカハシ ハルミ 高橋 晴美	高橋米穀、(株)ほんき村	出席
	流通	リョウケ ヤスモト 領家 康元	(株)キヌヤ社長	欠席

県関係者	松浦 芳彦	農林水産部 部長
	多久和 卓志	農林水産部 技監
	栗原 一郎	農林水産部 次長
	原 幸生	農業経営課 管理監
	鳥屋尾 健史	農産園芸課 課長
	小島 孝之	農産園芸課 有機農業GL
	原 正三	畜産課 課長
	池田 功一	農村整備課 資源保全スタッフ 調整監
	足立 和彦	農地整備課 課長
	植田 哲也	農地整備課 国営事業対策室 企画幹
	梶谷 則之	森林整備課 鳥獣対策室 企画員
	武田 昌司	隠岐支庁農林局 総合振興スタッフ 調整監
	引野 千賀志	東部農林振興センター 総合振興スタッフ 調整監
	大畑 元造	西部農林振興センター 総合振興スタッフ 調整監
事務局	中尾 幸義	農林水産総務課 政策推進スタッフ 管理監
	福田 誠	農林水産総務課 政策推進スタッフ 企画幹
	鳥谷 隆之	農林水産総務課 政策推進スタッフ 主任

## 平成30年度 第2回島根農政審議会 概要

日 時 平成31年3月15日(金) 13:30~15:50

場 所 職員会館健康教育室

出席委員 谷口委員、前田委員、影山委員、佐々木委員、井尻委員、藤江委員、吉川委員、  
渡邊委員、米原委員、高橋委員

県出席者 松浦部長、多久和技監、栗原次長ほか 関係職員

### 1 開会

### 2 農林水産部長あいさつ

次期計画への移行も見据え、平成31年度から、部を挙げて重点的に取り組む必要のあるテーマをパイロットプロジェクトとし、取り組むことについて提案させていただきご審議いただきたい。

### 3 議事

(1) 新たな農林水産業・農山漁村活性化計画第3期戦略プランの見直しについて担当課から説明

#### ①パイロットプロジェクトと関連する主要事業の概要

○有機パートナー企業の選定方法は？市町にも相談のうえ県内企業にも声を！

⇒産地を育てていただける企業。選定方法は具体的には詰めていないが参考にする。

○大きな企業との契約が大事。

⇒安定して安心して農家が取組めるような売り先を確保したい。

○水田園芸は賛成だが、①ほ場条件②基盤整備の生産者負担③労働力確保や技術高度化④販路など成功するための課題がある。

⇒排水対策の一方でかん水整備も重要。今はきめ細かなほ場整備もあり、実証ほを設置するなどトライしたい

野菜は手間がかかるので、機械化や作業請負など生産者の労力負担を軽減するなど「野菜のコメ化」を図る。

○出雲ブドウでは、若手がビジョンづくりなどで活発化。例えばトップセールスに若手を参加させるなど若い人が農業を楽しめる仕組みづくりが行政では大事。

園芸は手間がかかるのは当たり前でいかに付加価値をつけていくかが大事。

天候も一緒。それに答えていく対策が大事

⇒事業では県版リース事業で規模要件等緩和。水田園芸では、排水・機械化・流通対策とあわせて一定のまとまりとなる拠点化を進め、そこに従来の産地や集落営農組織も取り込む。

⇒それはわかるが、農家をやる気にさせるにはそれを先導するリーダー育成が重要

#### ②そのほかのプロジェクトの計画変更と関連する主要事業の概要

○JA契約率はコシヒカリを含むものか？

⇒その通り。

○暖冬で冬野菜が前進化、暴落。出雲周辺に次々大型業務系スーパー出店予定だが、市場では買ってもらえない。

⇒契約的取引は増えている。市場価格に比べて安い時もあるが単価が一定でありこれにより安心して生産性を高めることができる。

○加工しているが自前の小豆ができなくなり、地元産もJAから買えなく、北海道産を購入したが高い。

⇒基盤整備では、基本は暗渠排水するが粘土質でそれだけでは難しい。今は排水対策について柔軟に対応できる制度となっている。また、中間管理機構を絡めて農地を担い手に集積すると地方負担は少ない。環境直払いもある。

まずは地域で話し合いをしていただき、県にもご相談していただきたい。

(2) 第3期戦略プラン実績報告を農林水産総務課から説明

(3) 地域の特徴的な取組みを地方機関から説明

○牧野整備と並んで大事なものは牛舎整備。空き牛舎を担い手に貸し出す場合、牛舎リースは対象になるか?

⇒個人対個人ではなく、JAが入った形で対応を考えている

○WCSが知夫では14,000円、補助金入れると7,000円。本土は3,000円と聞く、せめて5,000円にならないか?

⇒平均3~4,000円/350kg。隠岐の島4,000円と認識していたので調べる。

4 その他 審議会次年度スケジュール等について農林水産総務課から説明

5 閉会